

Introduction

Vision

Materiality 01
GXによるサステナビリティの実現

Materiality 02
事業基盤の強化

Materiality 03
復興と廃炉の推進

Corporate Governance

Our Business

基幹事業会社

海外事業

Data Section



Our Business

基幹事業会社および海外事業

GX・DXの進展に加え、エネルギー安全保障への要請の高まり等、TEPCOグループを取り巻く外部環境は大きく変化しています。

基幹事業会社のリスク・機会とそれらを踏まえた社長メッセージ、そしてTEPCOグループの海外事業をご紹介します。

Core Operating Companies

基幹事業会社

再生可能エネルギー発電事業

東京電力リニューアブルパワー



東京電力
リニューアブルパワー株式会社
代表取締役社長

井上 慎介

再生可能エネルギー事業者として、『つくる』『つながる』『こたえる』を意識し事業拡大をめざします

東京電力リニューアブルパワーの安定収益基盤である水力発電事業では、**計画的なリプレースや設備保全を推進**するとともに、揚水発電を活用したサービスおよび市場取引での最適なポートフォリオの構築を追求することで収益拡大をめざします。また、データドリブンでのカイゼン活動、停止の短縮・回避による増電力を積み重ね、足元から収益力を持続的に向上し、競争力を有する脱炭素電源として維持・強化します。さらに、脱炭素電源確保・カーボンニュートラル実現のため、資産回転型の投資・共創等による**水力、洋上風力、地熱、太陽光、水素事業等の新規開発にも取り組む**ことで、GX・DXの進展、エネルギー安全保障への要請の高まりによる電力需要増への対応に挑戦します。当社グループはこれからも、『自然の恵みをエネルギーに、そして社会に』という理念のもと、あらゆる脱炭素エネルギーを「つくる」、地域と「つながる」、お客さまの期待に「こたえる」ことで社会に貢献します。

外部環境を踏まえたリスクと機会

リスク

地震・台風・豪雨・渇水等の自然災害、気候変動に伴う災害の激甚化や、経年による設備故障頻度の増加、計画外の系統制約等による再エネ発電設備の計画外停止率増加リスクが高まっています。これらにより、安定供給、安定したコストの維持、収益性の確保が損なわれることが懸念されます。

当社は気象予測の向上、計画的なリプレース・設備保全を実施し、**競争力を有する脱炭素電源の維持・強化**に努めてまいります。

機会

エネルギー安全保障への要請の高まりとともに、国内外での期限付きカーボンニュートラル目標が表明される中、高まるデジタル需要への対応に限らず、カーボンニュートラル電源のニーズが高まっています。当社は**既設設備の価値最大化や収益力向上**を図るとともに、資産回転型の投資・共創等による、水力、洋上風力、地熱、太陽光、水素事業等の新規開発を踏まえた、**新たな収益機会の創出と持続的な成長**をめざします。

送配電事業

東京電力パワーグリッド



東京電力
パワーグリッド株式会社
代表取締役社長
社長執行役員

金子 禎則

社会から信頼される企業として、
将来にわたり安定供給の責任を果たしていきます

当社の使命は、大規模需要や再生可能エネルギーの導入拡大といった社会ニーズに対応するとともに、施工力の確保や技術継承等の課題に適切に対応し、**将来にわたり安定供給を果たし続ける**ことです。

この使命を全うするため、地域・社会・お客さま・パートナー企業の皆さまとの**価値共創を推進**し、お客さま設備の早期接続や当社の系統設備の形成・運用・保守の効率化等に取り組んでまいります。

また、こうした取り組みの基盤となる安全・品質の確保とコンプライアンスの遵守に加え、人財や技術といった経営資源の磨き込みと拡大を通じて、**強固な事業基盤を構築**してまいります。

多様なステークホルダーとの連携を深めながら、一般送配電事業者としての使命を果たし、**地域・社会の発展への貢献と企業価値の向上の両立を実現**してまいります。

外部環境を踏まえたリスクと機会

リスク

大規模需要への対応等に伴う設備投資が増加するなか、労務費・材料費・燃料費の高騰、金利上昇、投資回収の長期化は、フリー・キャッシュ・フロー悪化につながるリスクと認識しています。

こうしたリスクに対し、**設備形成の最適化によるコスト低減や継続的なカイゼンによる生産性向上を進めるとともに**、レベニューキャップ制度における適確な申請に**取り組み、投資費用の早期回収や資金調達の円滑化に資する制度整備に向けた働きかけを進める**ことで、収支の安定化を図り、持続的な財務基盤の構築を目指します。

機会

データセンター等の大規模需要の増加は、将来の収益拡大と成長につながる重要な事業機会と認識しています。この機会を確実に捉えるため、他インフラ事業者との連携をはじめとする**サプライチェーンの強化**や、地域・社会・お客さま・パートナー企業の皆さまとの**参加型の取り組みによる需要の適地誘致、効率的な設備形成を進めて**まいります。

これらの取り組みにより、増加する系統接続ニーズに着実に応え、**新たな需要の獲得と事業機会の拡大**を通じて、持続的な成長につなげてまいります。

Introduction

Vision

Materiality 01
GXによるサステナビリティの実現

Materiality 02
事業基盤の強化

Materiality 03
復興と廃炉の推進

Corporate Governance

Our Business

基幹事業会社

海外事業

Data Section

小売事業

東京電力エナジーパートナー



東京電力
エナジーパートナー株式会社
代表取締役社長

長崎 桃子

お客さまの多様なエネルギーニーズに応え、
選ばれ続けるエナジーパートナーをめざします

東京電力エナジーパートナーは、お客さまに安定した電力サービスとカーボンニュートラルの実現に向けたソリューションを提供していきます。

地政学リスクをはじめとする国際情勢やエネルギー市場の変化により事業環境の不確実性が高まる一方、GX・DXの進展による電力需要の増加や脱炭素化ニーズの拡大等、電気事業者に求められる役割はより高度化しています。

こうした環境変化に対応するため、当社は**エネルギーの安定供給と価格の安定化**に取り組んでいます。具体的にはコストとリスクのバランスを追求した最適な電源ポートフォリオの構築をめざしつつ、デマンドレスポンス活用拡大等によるロードカーブの最適化を進めています。

また、電化や省エネルギーの推進、再生可能エネルギーの利用拡大につながるサービスを開発・展開し、お客さまとともにカーボンニュートラル社会の実現をめざします。

外部環境を踏まえたリスクと機会

リスク

中東情勢をはじめとする国際情勢の変化や、燃料・卸電力市場価格の変動、電力小売の競争激化等により、収益性が低下し、キャッシュフローが悪化するリスクがあります。これに対し、お客さまのニーズや市場環境の変化を適切に捉えた多様な料金メニューの展開に加え、最適な電源ポートフォリオ構築、金融的手法を活用したトレーディングやバラシンググループ拡大による需給運用力の向上によって、**調達と販売の両面から顧客基盤および収益基盤におけるリスク低減**を図ります。

機会

GX・DXの進展に伴い、データセンター等を中心に新たな電力需要の増加が見込まれています。こうした**大型需要**に対して、当社は**お客さまの希望するタイミングで希望する量の電気を過不足なくお届け**、さらに**カーボンニュートラル化**をめざしていきます。そのため、従来から培った蓄電池や自家発電等の設備サービスやガス、再エネCPPAや再エネメニュー等のサービスを最適に組み合わせて提案し、顧客基盤の拡大を図るとともに、新たな収益機会の創出につなげます。

燃料・火力発電事業

東京電力フュエル&パワー



東京電力
フュエル&パワー株式会社
代表取締役社長

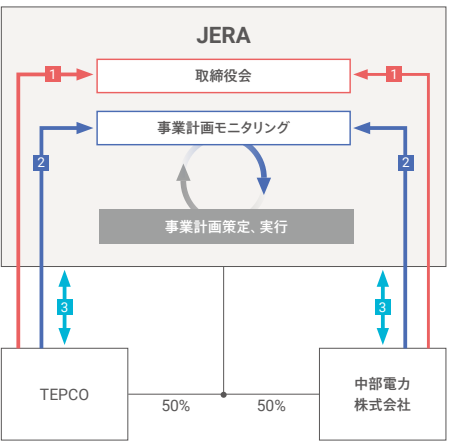
酒井 大輔

JERAの持続的な成長を支援・監督します

エネルギー安全保障の重要性が高まる中、**株式会社JERAは国内の電力供給を支える中核的な発電事業者**として重要な役割を担っています。JERAは、経年化した火力発電所のリプレースの早期実施やLNGバリューチェーンの強化等を通じて**安定供給**に貢献するとともに、再生可能エネルギーやゼロエミッション火力の導入を進めることで脱炭素化にも取り組んでいます。

当社は**株主としてJERAの自律性を尊重**しながら、中長期的な企業価値向上とエネルギーの安定供給の確保に向けて、事業計画に関する対話や経営状況のモニタリングを通じた適切な**支援・監督**を行い、**JERAの持続的な成長に貢献**してまいります。

株主ガバナンス



- 1 監督：JERA取締役の選任**
 - 両株主は、JERA取締役および監査役の選解任権限を有する
 - JERA取締役にTEPCOグループから1名を選任。JERAの業務執行を取締役として監督
- 2 業務執行：事業計画モニタリングへの関与**
 - 東京電力ホールディングスの取締役会へ四半期ごとにJERAの経営モニタリングについて報告し、議論
- 3 コミュニケーション**
 - 3社経営層による会談等を定期的実施

Introduction

Vision

Materiality 01
GXによるサステナビリティの実現

Materiality 02
事業基盤の強化

Materiality 03
復興と廃炉の推進

Corporate Governance

Our Business

基幹事業会社

海外事業

燃料・火力発電事業

JERA's Strategy

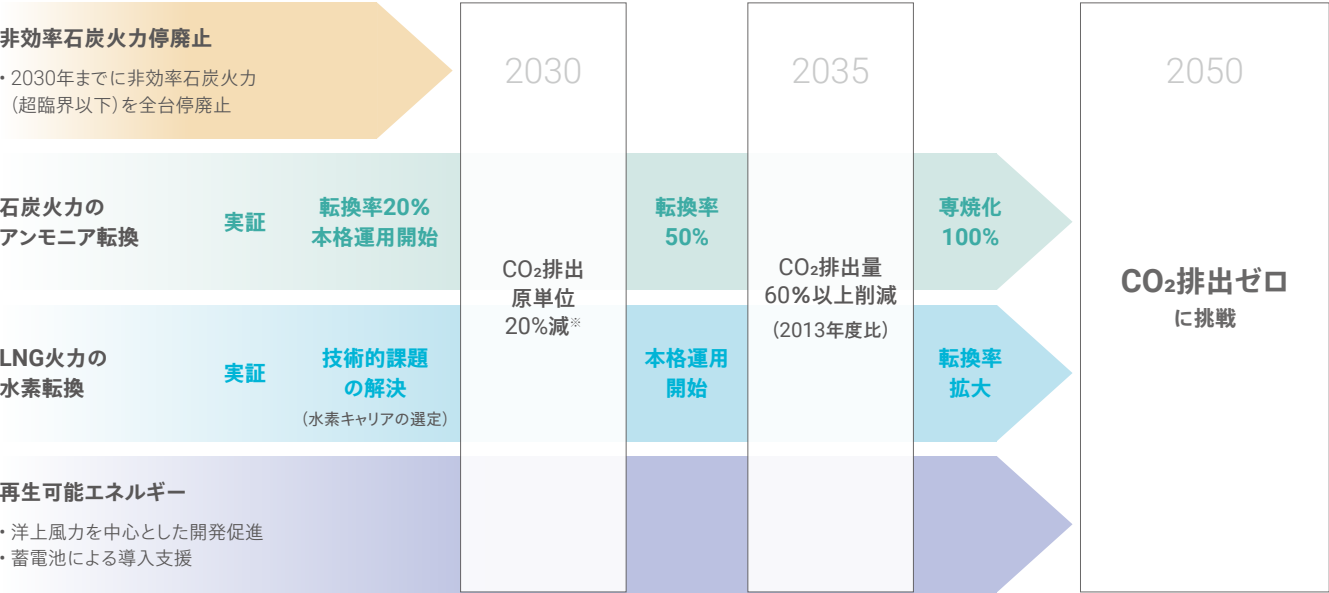
JERAの挑戦

地政学リスクの高まりやエネルギー需給構造の変化、脱炭素化の進展等、事業環境の不確実性が増すなか、株式会社JERA（持分法適用関連会社）は、**安定供給の維持**（Stability）、**手ごろな価格での供給**（Affordability）、**脱炭素社会**への移行（Sustainability）の同時達成に向け、LNG、再生可能エネルギー、水素・アンモニアの3つの事業を組み合わせ、各地域・国に適合した最適なソリューションを提供していきます。

その実現に向けて、火力電源開発やリブレース、機動的かつ安定的な燃料確保、リスク対応力に優れたLNGポートフォリオの構築に取り組むとともに、「**JERAゼロエミッション2050**」に基づき、洋上風力発電事業をはじめとする**再生可能エネルギー**プロジェクトや**脱炭素技術の開発・導入**を進めています。

TEPCOグループは、こうした**JERAの取り組みを適切に支援・監督**し、その持続的な成長と企業価値向上を通じて、GXの推進およびカーボンニュートラル社会の実現に貢献していきます。

JERAゼロエミッション2050 日本版ロードマップ



※政府が示す2030年度の長期エネルギー需給見通しに基づく、国全体の火力発電からの排出原単位と比べて

KPI

JERA当期純利益(期ずれ除く)

2025年度 実績

1,836億円

2035年度まで

3,500億円

Overseas Business

海外事業

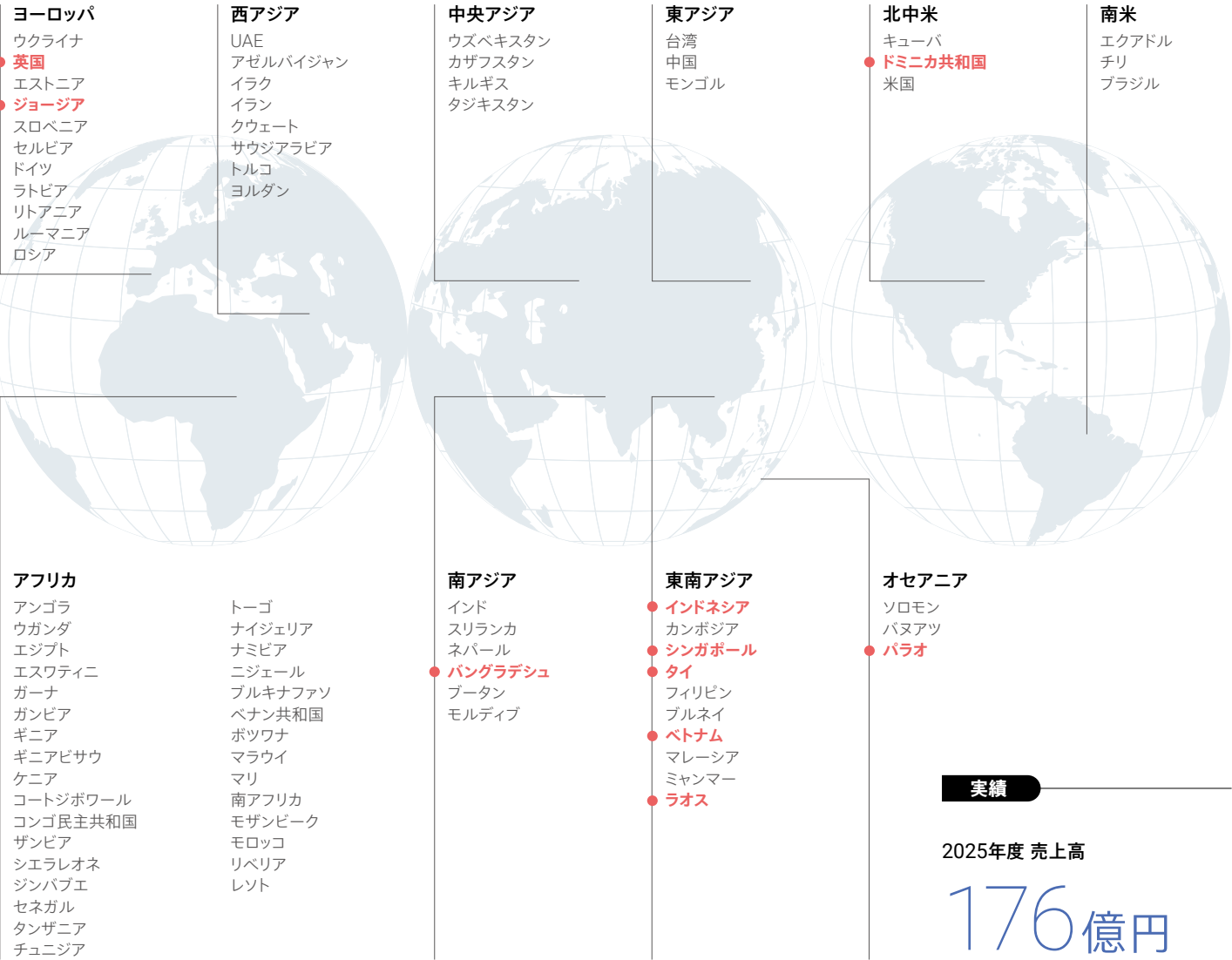
水力や洋上風力などの再生可能エネルギーおよび送配電分野の海外事業については、TEPCOグループの強みである**技術力**や**事業運営の知見**を活用し、事業価値の向上に取り組んでいます。国内事業を基盤としつつ、収益基盤のさらなる多様化に向け、資本効率を重視した投資を推進するとともに、外部資本との共同投資や資産回転型モデルを活用することで投資規律を維持しながら、**中長期的な収益基盤の拡充**と企業価値の向上をめざしてまいります。

2025年度の主な海外プロジェクト(●)

- 英国**
風力、蓄電池、海底送電
- ジョージア**
水力、技術支援※
- バングラデシュ**
コンサルティング(停電防止能力強化)
- インドネシア**
水力、技術支援※
- シンガポール**
太陽光、コンサルティング(地下変電所)
- タイ**
太陽光、省エネ支援・証書、コンサルティング(地下変電所)
- ベトナム**
水力、工業団地
- ラオス**
コンサルティング
(電力品質、総合エネルギーマスタープラン)
- ドミニカ共和国**
コンサルティング(エネルギートランジション)
- パラオ**
コンサルティング(系統安定化マスタープラン)

海外プロジェクト展開国・地域(2016～2025年度)

2019年より燃料・火力事業を株式会社JERAに移管したため同社の実績を除く



※TSA(Technical Service Agreement)による運用保守技術支援